

放射能からの環境保全のための 福島原発事故の教訓に基づく 災害リスク伝達者育成プロジェクト

活動地域  香港、ヨルダンなど

つづける助成

3年目

知識の提供・普及啓発

ワークショップ等を
実施した国の数 **2か国**

各国のワークショップ
等の参加者数 **295人**

今年度計画の達成度 **70%**

目標達成度 **70%**



ヨルダンの中学生による演劇「希望の牧場」

苦労した点と工夫した点

■ 苦労した点

現地の伝達者や協力団体がワークショップ等の実施を希望する時期が3.11前後に集中しがちで、年間を通じてバランスよく企画を実施することが難しかった。

■ 工夫した点

原発事故時の物語を描いた絵本をもとに、現地の中高生たちに自ら演劇をつくり上演してもらうことにより、受け身でなく能動的に原発のリスクを考えてもらう機会をつくった。

課題

世界の原発立地国や建設計画のある国、特に途上国では原発リスクについて幅広い建設的議論の場がなく、市民社会が得た福島教訓もほとんど伝わっていない。

目標

原発立地地域（あるいは予定地）において、福島の原発事故の教訓をベースとして、原発災害のリスク軽減と環境保全のための具体的な議論が喚起される。

活動内容と成果

6月に香港の嶺南大学で開催された中国全土から環境活動家等が集まるフォーラムに、福島出身のジャーナリスト藍原寛子氏と福島ブックレット委員会の委員が参加。講演と展示を行い、参加者とディスカッションをした。2月にはヨルダンで、福島県浪江町で原発事故後殺処分命令の出た牛たちを生かし続けている「希望の牧場」の物語を描いた絵本をもとに、現地の中高生が演劇をつくり上演。それに合わせて希望の牧場代表の吉沢正巳氏がヨルダンを訪問し、講演を行い、中高生たちと語り合ったほか、現地の有識者や在留邦人とも交流した。



香港嶺南大学のフォーラムで講演する藍原氏



ヨルダンの有識者たちに語りかける吉沢氏

全助成期間の活動を振り返って

1年目に韓国、台湾、インド、トルコ、ヨルダンからNGO関係者などを招き、「福島の教訓を世界でどう伝えるか」を話し合う戦略会議と福島視察ツアー、シンポジウムを開催。これを皮切りに、台湾、韓国、ウェールズ、タイ、香港、ヨルダンでワークショップやレクチャー、写真展、映画上映、演劇などを開催。各国の「災害リスク伝達者」と協力して企画開催することを通じて、広く福島の教訓を伝える活動を行うことができた。

〒169-0051
東京都新宿区西早稲田2-3-18 25号室
HP : <http://fukushimalessons.jp>



今後の展望

今後はこの3年間の活動をいったん整理し、関わった各国の伝達者たちと経験を共有したい。そして、ヨルダンで行ったような若者たちが自ら演劇を通じて原発災害のリスクを理解するような活動が、他国でもできないか模索する予定である。